

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

人はなぜ笑うのだろうか？
独自の仮説で解剖していく

『「笑い」の解剖—経済学者が解く50の疑問』

中島隆信(商学部教授)著

慶應義塾大学出版会／1800円(2019年9月)



著者はこれまで『大相撲の経済学』『お寺の経済学』『障害者の経済学』『オバサン
の経済学』などの著書で、さまざまな社
会現象を経済学の知見で解き明かしてき
た。本書は「笑い」という謎を「四段階説」
という独自の仮説に基づきながら「解剖」
していく。「夫が笑うと妻はキレる?」「笑
うと健康になるのか?」「AIは人を笑わ
せられるか」など、50のトピックを通し
て人間にとっての「笑い」の意味と意義
を徹底追求。子どもの頃からお笑いが好
きで、中学生のときには古典落語に夢中
になったという著者の「笑い」への強い
こだわりが読者の知的好奇心を刺激する
一冊である。

教職員執筆の新刊

●細谷雄一(法学部教授)ほか編著

『日本近現代史講義—成功と失敗の歴史に学ぶ』中公新書／900円
(2019年8月)

●松尾弘(法務研究科教授)著

『家族法改正を読む—親族・相続法改正のポイントとトレンド』慶應義塾
大学出版会／1800円(2019年9月)

●前野隆司(システムデザイン・マネジメント研究科教授)著

『感動のメカニズム—心を動かすWork & Lifeのつくり方』講談社現代新
書／840円(2019年9月)

●駒村康平(経済学部教授)編

『エッセンシャル金融ジャーナロロジー—高齢者の暮らし・健康・資産を
考える』慶應義塾大学出版会／3000円(2019年9月)

●慶應義塾大学教養研究センター、赤江雄一(文学部准教授)、高橋宣也(文
学部教授)編

『感染—生命の教養学14』慶應義塾大学出版会／2400円(2019年9月)

●常盤拓司(政策・メディア研究科特任准教授)ほか著
『大学1年生からのプロジェクト学習の始めかた』慶應義塾大学出版会／
1400円(2019年11月)

慶應義塾の一冊

『井筒俊彦さんま』

若松英輔編

慶應義塾大学出版会／2400円
(2019年10月)



慶應義塾で学び、教鞭をとった井筒俊彦と
はどのような人物か? 古今東西の哲学を深
く理解し、西洋思想に匹敵する「東洋思想」
を打ち立てようとした哲学者。あるいはア
ラビア語、ペルシャ語、サンスクリット語など
30以上の言語を自在に操る語学の天才……。
『井筒俊彦 叡知の哲学』(慶應義塾大学出版
会)の著書を持つ編者によつて編纂された本
書は、井筒と交遊のあった国内外の作家・思
想家・学者たちが、それぞれの視点から井筒
を語った文章を収録。稀代の大学者の人とな
りを浮き彫りにする。